



①最も多いつがい間の距離 上-雌



②



③

フクロウ類は休息をとる時、つがいが接近していることが多い。特にフクロウやコノハズクの仲間は雌雄が密着していることが多いです。冬期、狭い樹洞の入り口で寄り添っている姿はほほえましいです。このような状況は冬期によく見られることから、お互いに暖をとっているともとれますが、他の季節でも同様に密着していることがあります。しかし1年を通して見ることはありません。それは繁殖し、雛が成長して独り立ちすればつがいは別行動をとるため雌雄が一緒にいることは少なくなるからです。

シマフクロウが休んでいる時は、通常は写真①の感じです。並んで止まっている時は微妙に2羽の間には隙間があります。稀に身体が触れていることがありますが(写真②)、ほぼ毎日観察して、1年に1、2度しか見たことがありません。殆どは写真③の間隔より離れています。この微妙な間隔は飛来した時に最初に止まっている相手に羽根が当たるからとも考えられますが、どうしてでしょうか。幼鳥は巣立ち直後は2羽で寄り添っていることがありますが、十分に飛行出来るようになると20cm以上空けて休んでいます。(会報33号の表紙参照)

シマフクロウは1年を通して雌雄が一緒に行動していることが他のフクロウ類と異なります。どうもこのあたりに原因があるような気がします。密着している時、他のフクロウ類は相互羽繕いをよく行ないますが、シマフクロウは並んで止まっても相互羽繕いは殆どありません。稀に片方が近づいて相手に羽繕いを始めようと嘴で相手の羽毛に触れると、された方は少し離れます。これはどうしてでしょうか。相互羽繕いは互いの絆を深めたり、信頼関係を表す行動の一つです。短期間の共同生活において羽繕いは求愛給餌と並び非常に重要と思われます。ではシマフクロウにはそれが不要なのでしょう。シマフクロウの求愛給餌は繁殖期に限ったものではなく、回数は少ないですが、1年を通して見られます。常に阿吽の呼吸で行動しているため、改めて儀式的な相互羽繕いは必要ないのではないのでしょうか。やはり互いの羽根があたるのを避けているようです。羽繕いされた方は、多分「ゆっくり寝かせて」でしょうね。相互羽繕いのことをご存じの方は教えてください。

北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌

第36号



● 昨年は、設立10周年記念事業として、コンサドーレとの連携企画や記念講演会・パネルディスカッションなどの行事を開催することができました。今年も連携企画や講演会等の開催を予定していますので、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

● 賛助会員ご入会・ご寄付を募集しています

当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆様のご賛助会員ご入会とご寄付を募集しています。当会のホームページからご入会手続・ご寄付申込手続ができますのでよろしくお願いいたします。

【認定NPO法人北海道シマフクロウの会 事務局】(担当: 米谷・久保木)

〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階 (株)北海道二十一世紀総合研究所内 TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683

URL: <https://hokkaido-shimafukurou.org/> E-mail: info@hokkaido-shimafukurou.org



設立 10 周年記念事業 北海道コンサドーレ札幌との連携

認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 事務局



連携企画第二弾

札幌ドームホームゲーム サンフレッチェ広島戦で特設ブース出展

開催日 令和5年11月11日(土)

場所 札幌ドーム

株式会社コンサドーレ様のご協力により、札幌ドームホームゲームのサンフレッチェ広島戦で、札幌ドーム1階コンコース北3ゲート奥に当会の特設ブースを出展させていただきました。本年2月25日のヴィッセル神戸戦に続いて、2回目の出展です。

当日は、シマフクロウの動画を上映し、今回も皆さんの支援をお願いする支援募金箱を設置いたしました。前回に引き続き、北海学園大学の早矢仕先生、公益財団法人日本野鳥の会様にもご参加いただき、エゾフクロウのはく製、シマフクロウの巣箱の実物や紹介タペストリーなどを展示してご説明いただきました。また今回は初めて環境省北海道地方環境事務所様から3名の方にご参加いただき、シマフクロウのはく製や羽根・足などの展示・解説でご協力を賜りました。

当日の札幌ドームの入場者は約1万3千人でしたが、おかげさまで、当会特設ブースには、コンサドーレ様のご配慮でドレくんとコンサドーレズの方々にお出でいただいたこともあって、大変多くのサポーターの方々からご支援をいただき、支援募金箱のご寄付額は119,442円となりました。

あらためまして、この日ご参加いただいたすべての皆様の温かいご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



事務局より

国分北海道株式会社様より
道産酒「島泉」シリーズの売上金から
のご寄付をいただきました

昨年に引き続き、食品卸道内大手の国分北海道株式会社様から、同社が販売する道産酒「島泉」シリーズ売上金からのご寄付をいただくこととなり、12月27日(水)に、国分北海道株式会社 諏訪社長様がお来局され、寄付金目録をご贈呈いただきました。当会の村田理事長から、シマフクロウ保護活動の支援のため大切に使用させていただく旨のお礼の言葉をお伝えしました。このご寄付については、これからも続けてお取組みいただけることになっています。

対象商品

- 島泉 十勝ブランデー 熟成30年 (1本あたり寄付金200円)
- 島泉 十勝ブランデー 原酒



(1本あたり寄付金200円)

島泉 甘熟 SWEET 21年

(1本あたり寄付金100円)

島泉 甘熟 SWEET TAWNY 21年

(1本あたり寄付金100円)

●販売実績1,379本

●ご寄付金額257,100円

国分北海道株式会社様は、平成30年1月に新ブランド「島泉」シリーズとして十勝ブランデー2種類を発表されましたが、その後、上記のように「島泉」シリーズを次々と発売され、平成31年から今まで継続してその売上金の一部を当会へ寄付されておられます。



設立 10 周年記念事業 記念講演会・パネルディスカッションを開催しました

認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 事務局

設立10周年記念事業の一つとして、昨年9月20日に記念講演会とパネルディスカッションを開催いたしました。当日は、生息地で保護活動に直接携わっておられる方々や弊会賛助会員の皆様をはじめ、北海道地方環境事務所や北海道森林管理局の方々、一般参加の皆様など、大変多くの方にご来場いただきました。皆様のご支援、ご協力にあらためまして御礼申し上げます。

日時 ●令和5年9月20日(水) 午後2時~5時

場所 ●TKP ガーデンシティ PREMIUM 札幌大通
6階「ホール6D」

プログラム

1 ●村田理事長 挨拶

2 ●記念講演会

演題 「シマフクロウの昨今 そして未来」

講師 山本 純郎氏 シマフクロウ保護・研究家

3 ●パネルディスカッション

テーマ

「これからの保護増殖活動ー今、何が求められているのか」

パネリスト

山本 純郎氏 シマフクロウ保護・研究家

早矢仕 有子氏 北海学園大学 教授

竹中 健氏 シマフクロウ環境研究会 代表

松本 潤慶氏 公益財団法人日本野鳥の会 チーフレンジャー

朝倉 卓也氏 札幌円山動物園 飼育展示二担当係長

コーディネーター

村田 正敏 認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 理事長

◆この記念講演会・パネルディスカッションにつきましては、次号「北海道シマフクロウ通信第37号」を特集号とし、詳しい内容や写真等を掲載させていただく予定です。

事務局より

猛禽類医学研究所にインキュベーター(保育器)を贈呈

限られた予算の中で医療機器の調達に苦心している、NPO 法人北海道シマフクロウの会(以下、当会)の支援先でもある釧路の猛禽類医学研究所(以下、研究所)では、齊藤代表が SNS 等を通じて大型鳥類の治療等に使用可能なインキュベーターの中古物件の寄付を呼びかけていました。これを趣味でバードウォッチングを行う札幌医科大学の齋藤教授が情報として察知。教授が当会の賛助会員であったことから、ケガをしたシマフクロウの治療にも使われるインキュベーターを、当会を通じて研究所へ寄贈することを発案。研究所の齊藤代表とも情報交換をしながら、当会が医療機器業者の情報から廃棄処分となる予定の中古機材3台を確保し、寄贈を実現したものです。この度10月17日に齋藤教授の来釧に合わせ、当会事務局も立会い、研究所への贈呈式を行いました。

研究所の渡辺副代表からは、中古品とは言えまだ使用可能な機器を寄贈いただいたことは、研究所の医療態勢充実への大きな貢献であり、大変有難いこと。発案いただいた札幌大齋藤教授並びに寄贈にこぎつけた当会にも感謝したいとの言葉をいただきました。当会では、今後もシマフクロウに代表される絶滅危惧種を含む希少生物の保護、道内の生物多様性保全に貢献する活動に取り組んでいく考えです。



事務局より

クラウドファンディング達成の
御礼を申し上げます
第5回クラウドファンディングについての
ご報告・御礼

シマフクロウの保護活動に携わっておられる方々の現場での活動(給餌や巣箱設置等)を財政面から支援することを目的として、昨年に引き続き、5回目のクラウドファンディング方式によるご寄付の募集をさせていただきましたところ、募集期間の9月4日から10月24日の約2ヶ月間で、おかげさまで目標額700,000円を大きく上回る1,509,100円のご支援を賜りました。

改めまして、皆様からの多大なる熱いご支援に深く感謝申し上げます。

第5回クラウドファンディング実績

目標額 700,000円

ご支援額 1,509,100円

(ご支援延べ67口 達成率215%)

(ご寄付額3万円以上の方のお名前は、弊会ホームページ上に掲載させていただいております)